

熱帯の有用材 (19)

緒方 健

その他のセンダン科樹木 (1)

熱帯アフリカのセンダン科樹木としては、これまでに取り上げた *Entandrophragma* および *Khaya* のほかに *Carapa*, *Ekebergia*, *Guarea*, *Lovoa*, *Melia*, *Pseudobersama*, *Pseudocedrela*, *Trichilia*, *Turraea*, *Turraeanthus*, *Xylocarpus* 等の属の樹木がある。その中で *Lovoa*, *Turraeanthus*, *Guarea* 等の樹木が有用材として知られる。

1. アフリカンウォールナット (African Walnut) 学名: *Lovoa trichilioides* Harms (Syn.: *L. klaineana* Pierre ex Sprague)

シエラレオネからコンゴおよびアンゴラにかけての熱帯西アフリカに広く分布する樹木で、降雨林地域に多くみられる。アフリカンウォールナットの名は材色がクルミ科のウォールナットに似ることによるが、分類学的には関係がない。このほかフランス語圏では一般にディベトゥ *dibétou* の市場名で知られる。ウガンダなど東アフリカの *L. brownii* Sprague および *L. swynnertonii* Bak. f. も同様の良材をもつ。

樹木の形状: 樹高 45 m, 直径 1 m またはそれ以上になる常緑高木で、通常は高さ 1~1.5 m 程度の太い板根があるが、あまり発達しないこともある。樹幹は通直、円筒状で、枝下高 25 m に達する。樹皮は褐色~暗褐色で薄片状に剥げる。樹皮の切り口は赤褐色で、甘い針葉樹様の芳香がある。葉は長さ 20~40 cm の羽状複葉で、(2~) 3~5 (~7) 対の小葉がある。小葉は長さ約 6~20 cm, 幅約 3~8 cm の楕円形で全縁。花序は円錐花序で、緑白色の小花をつける。花卉 4, 萼片 4, 雄ずいは花糸が筒状に癒合し、筒の先端に 8 個の葯をもつ。果実は長さ 3.5~5 cm, 直径 1~1.5 cm の木質、紫黒色のさく果で、熟すると基部から 4 裂開し、数個の種子を出す。種子は径約 6 mm で、長さ 2~3 cm, 幅約 7 mm の翼がある。

木材の特徴: 辺材は淡黄色~淡黄褐色で、幅 5 cm 未満、心材は暗褐色でにぶい金色の光沢をもつ。肌目の精粗は中庸で、木理は一般に交錯し、リボン杓を示す。気乾比重は 0.56 (0.44~0.69) で重さ、硬さ中庸。顕微鏡的特徴としては、孤立管孔の接線方向の最大径は (100~) 170~220 μm 。道管の分布数は 8 (4~12)/ mm^2 。道管には黒褐色の着色物質が含まれる。放射組織は 1~5 列だが、4 列が主体で他は少ない。隔壁繊維はない。軸方向柔組織は随伴散在~周圍型であまり発達しない。鎖状をなす多室結晶細胞が一般に多く存在する。不規則に带状柔組織が現れることがある。ときに障害樹脂道がみられ、同心円状に配列する。シリカは含まない。

木材の加工性としては、乾燥は比較的早く、大きな狂いなどの障害もない。乾燥後

の寸法安定性は高い。切削加工性も良く、接着性、塗装性も問題ない。耐久性は中庸。心材への薬剤の注入は困難である。用途としては、ウォールナットの代用として家具、高級造作材などに用いられる。

2. **アヴォディラ** (*Avo-diré*) 学名: *Turraeanthus africanus* (Welw. ex C. DC.) Pellegr. (Syn.: *T. vignei* Hutch. et Dalz.)

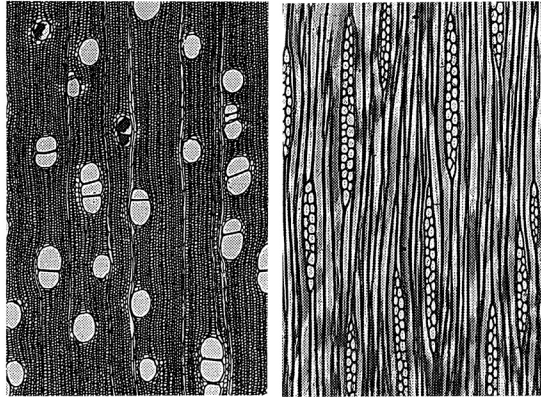


写真-1 *Turraeanthus africanus* 木口面 (16×)

写真-2 同 板目面 (40×)

アヴォディラはシエラレオネからザイール、アンゴラにかけての熱帯西アフリカに広く分布する樹種で、コートディヴォアール南部からガーナにかけて多い。

樹木の形状：樹高 25~35 m, 直径 0.5~1 m 程度の常緑中高木で、低い板根をもつ。枝下高は 10~15 (~20) m で、樹幹は曲がっていることが多い。樹皮は灰色~淡褐色で、ほぼ平滑。樹皮の切り口は淡黄色~淡褐色で、甘い針葉樹様の芳香がある。葉は長さ 30~50 cm の羽状複葉で、8~24 (~30) の小葉がある。小葉は長さ 6~25 cm, 幅 2~6 cm の狭楕円形で、全縁、やや互生する。花序は円錐花序で、淡黄白色の小花をつける。花冠は筒状で先が 5 裂する。雄ずいも筒状に癒合する。果実は径約 3 cm の球形のさく果で、中に長さ約 2 cm, 径約 1 cm の種子を数個含む。

木材の特徴：辺心材の区別のないような淡黄白色~淡黄色を示し、後やや淡褐色を帯びる。金色の光沢があって美しい。特別な味や臭いはない。肌目の精粗は中庸、木理はやや交錯し、軽度のリボン杻を示すことが多い。気乾比重は 0.58 (0.49~0.63) で、重さ、硬さ中庸。顕微鏡的特徴としては、孤立管孔の接線方向の最大径は (280~) 350~420 (~470) μm できわめて大きい、その割には肌目が粗にみえない。道管の分布数は 9 (7~12)/ mm^2 。放射組織は 1~2 (3) 列で、2 列が主体をなす。隔壁繊維がまれに存在する。軸方向柔組織は随伴散在型。シリカは含まない。

木材の加工性としては、乾燥はかなり早い、反り、ねじれが起きる傾向があり、乾燥を急ぐと割れが起きやすい。乾燥後の寸法安定性は高い。切削加工は容易で、鋭利な工具を用いれば良好な仕上がりが得られる。接着性、塗装性も良い。耐久性は低く、菌、昆虫に犯されやすい。また心材への薬剤注入は困難である。比重の割には強度があり、オークに匹敵するという。ただし曲げ木には適さない。用途としては家具、造作材などで、とくに波状木理による杻のある材は装飾用に賞用される。